

# 体育おもしろスクール

「わかる」「できる」「子どもたちの思い」  
を大切にした授業づくり

支援学校の現場から

辻内 俊哉  
大阪府立泉南支援学校

子どもの権利、障害者の権利は  
一定前進したが・・・

大阪の知的支援学校の児童生徒は、2026年度までに

**1400人増えます！** (大阪府教委将来推計による)

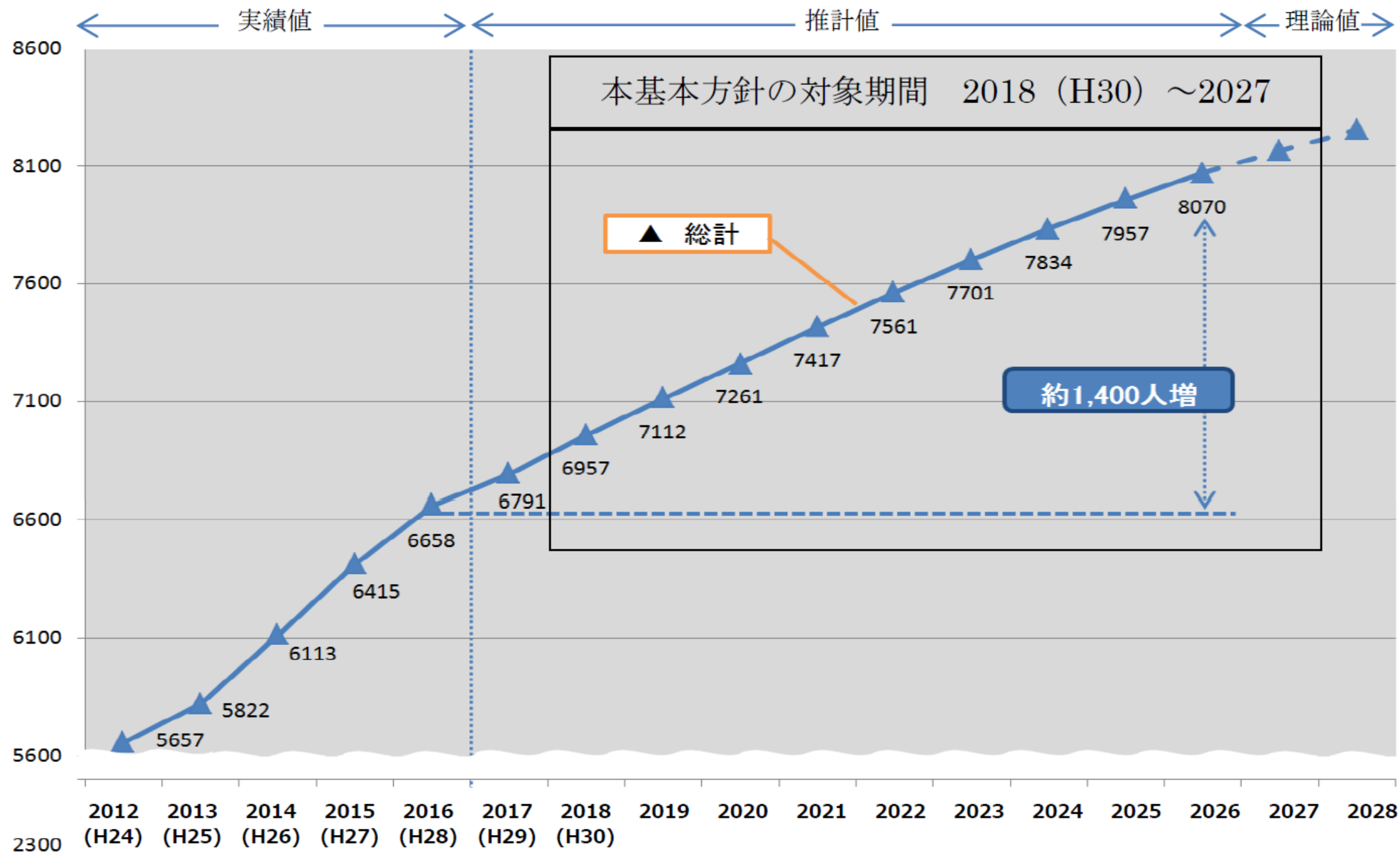
300人程度の大規模校でも **5校必要です！**

しかし…

たったの **600人**

府教委は**必要最小限**にとどめようとしています！





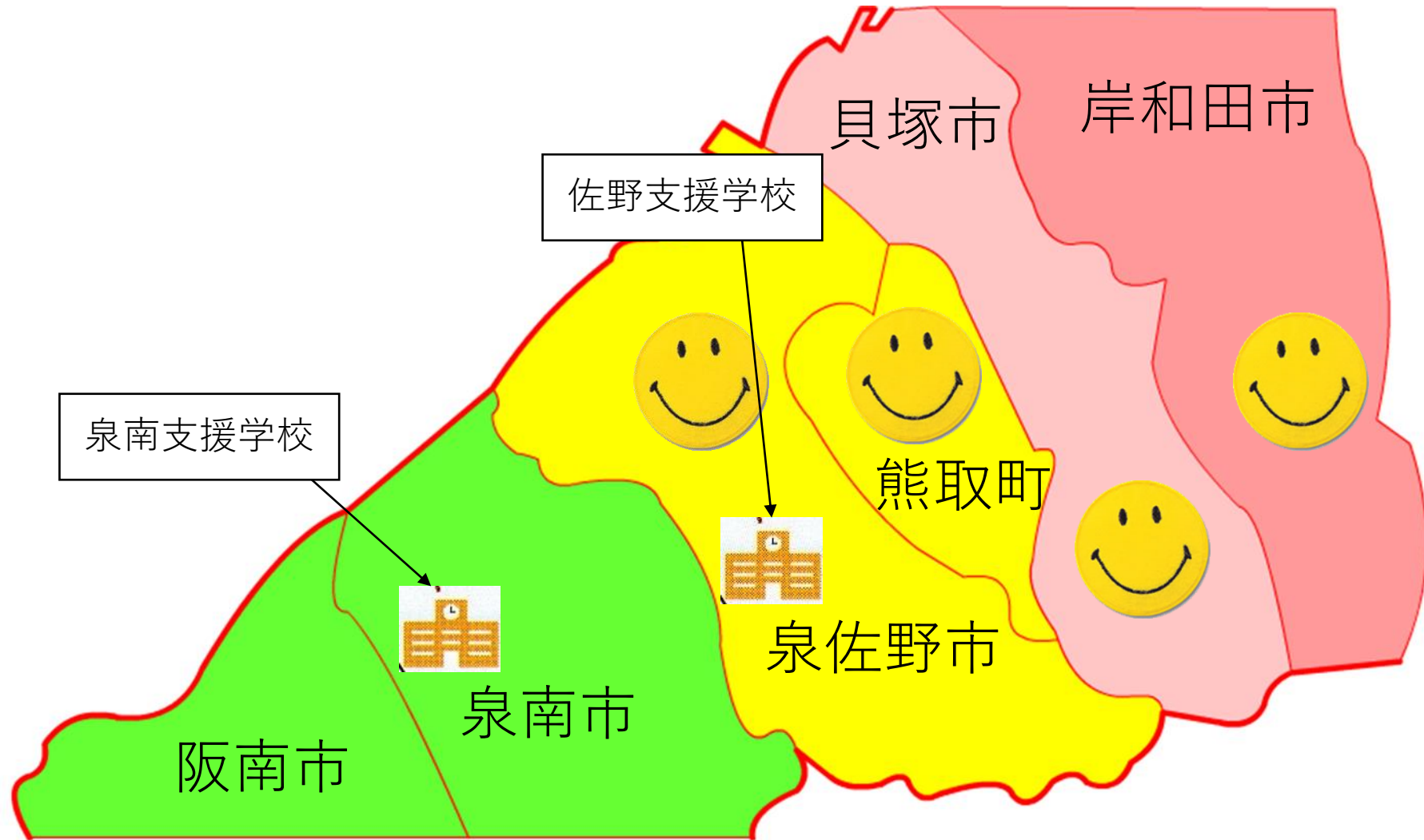
※理論値：2027年・2028年の数値は、2026年までの将来推計を2年間延長したもの。

# 府立支援学校における知的障がい児童生徒の 教育環境の充実に向けた基本方針

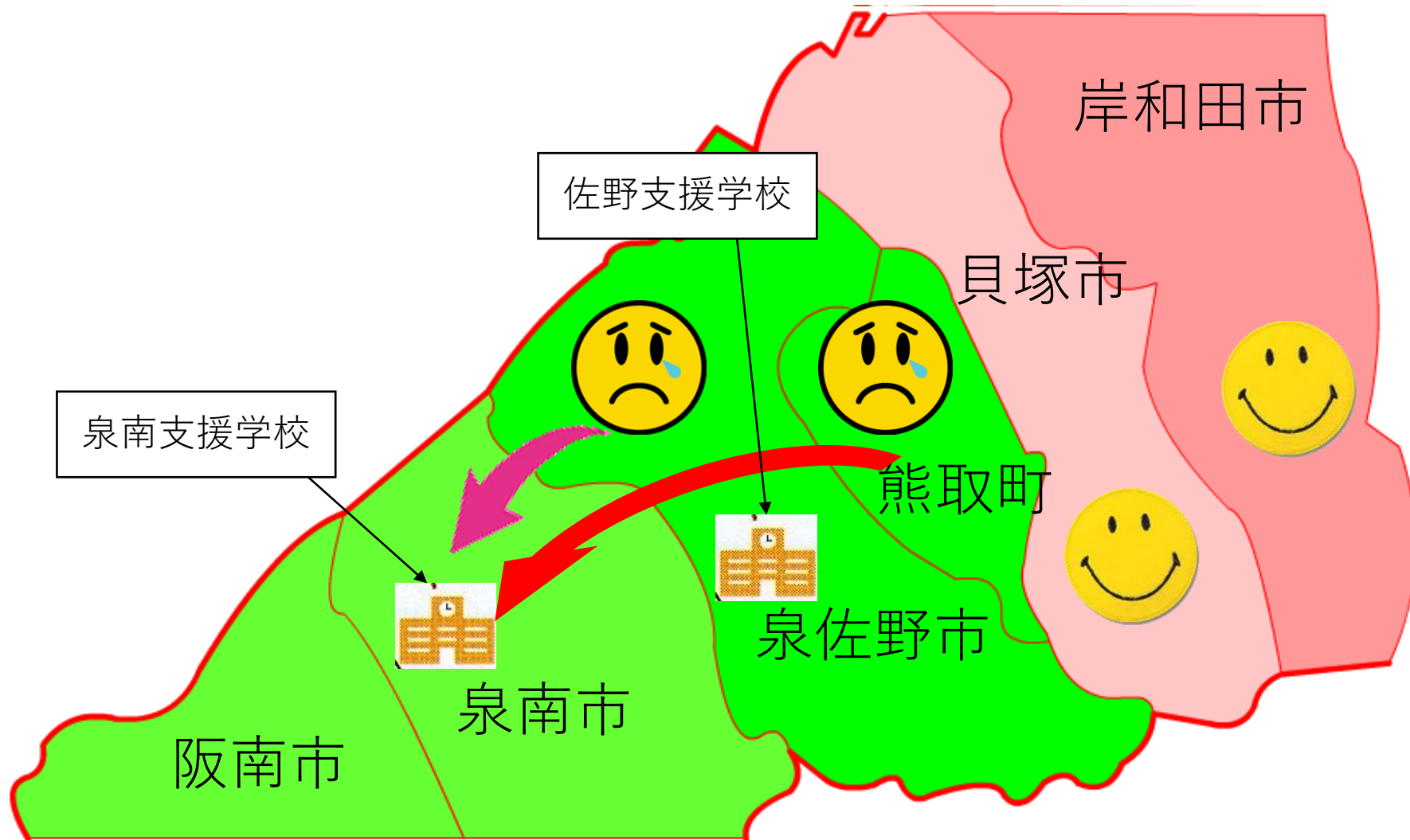
大阪府の  
案

- ①知的障がい支援学校の既存施設の活用  
(特別教室の転用や通学区域割の変容)
- ②他の障がい支援学校との再編整備  
(肢体不自由と知的障がいの並置校を造る)
- ③府立高校内に支援学校分教室の設置  
(府立高校内に支援学校分教室の設置を検討する)
- ④知的障がい支援学校の新設  
(著しく増加する見込みのある地域限定)

# 通学区区域割変更の例



# 通学区区域割変更の例











大阪府立泉南支援学校

大阪府立吹上高等学校



# 特別支援学校の教育課程

<p>せいかつ</p>	<p>ことば・かず たいいく おんがく しゃかいせいかつ さぎょう など</p>	<p>特別活動 (遠足 マナー学習 など)</p>	<p>自立活動</p>
-------------	--	---------------------------------------	-------------

# 特別支援学校の教育課程

<p>せいかつ</p>	<p>ことば・かず たいいく おんがく しゃかいせいかつ さぎょう など</p>	<p>特別活動 (遠足 マナー学習 など)</p>
-------------	--	---------------------------------------

自立活動とは  
各教科・領域、  
日常生活で  
困っている  
ことを解決  
する方法を  
学ぶ。

# 本日の内容

- 障害をどのようにとらえるのか（障害理解）
- 障害児教育の基礎理論
- 「体育」の授業づくり
- 教材・事例の紹介（時間に応じて）

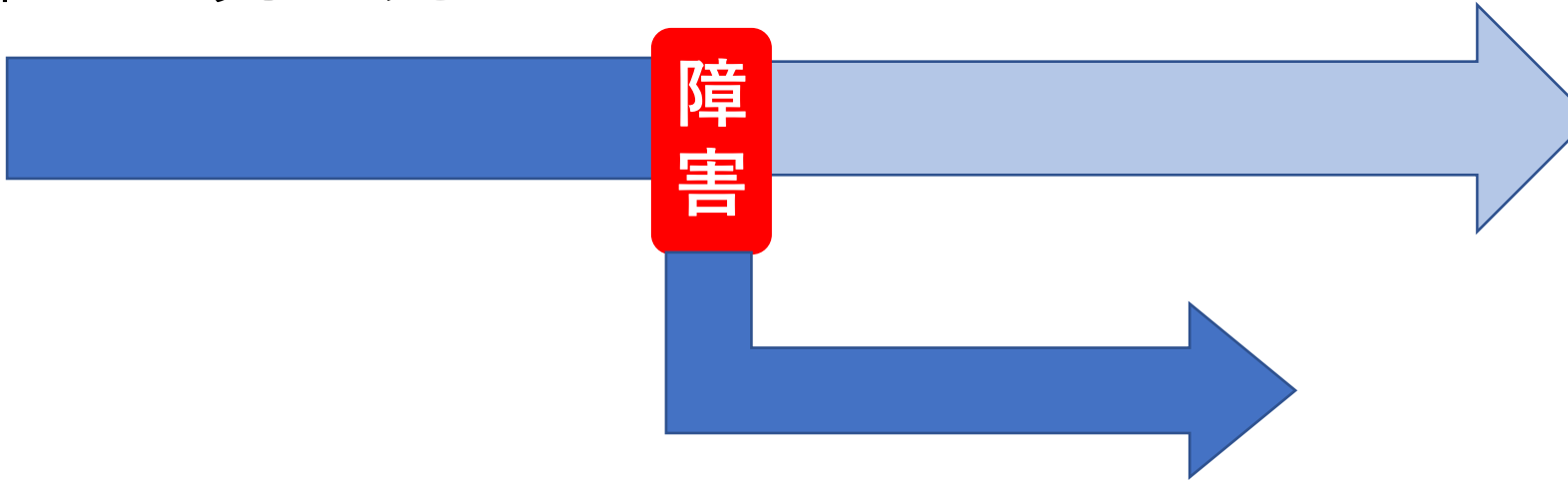


# 障害について理解してほしいこと

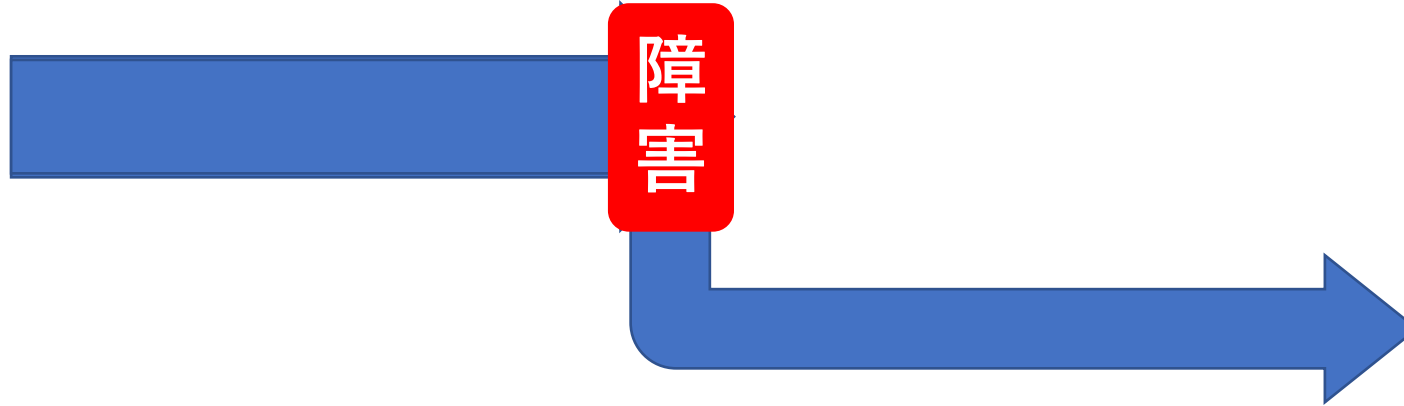
健常児の発達



障がい児の発達



# 障がい児の発達

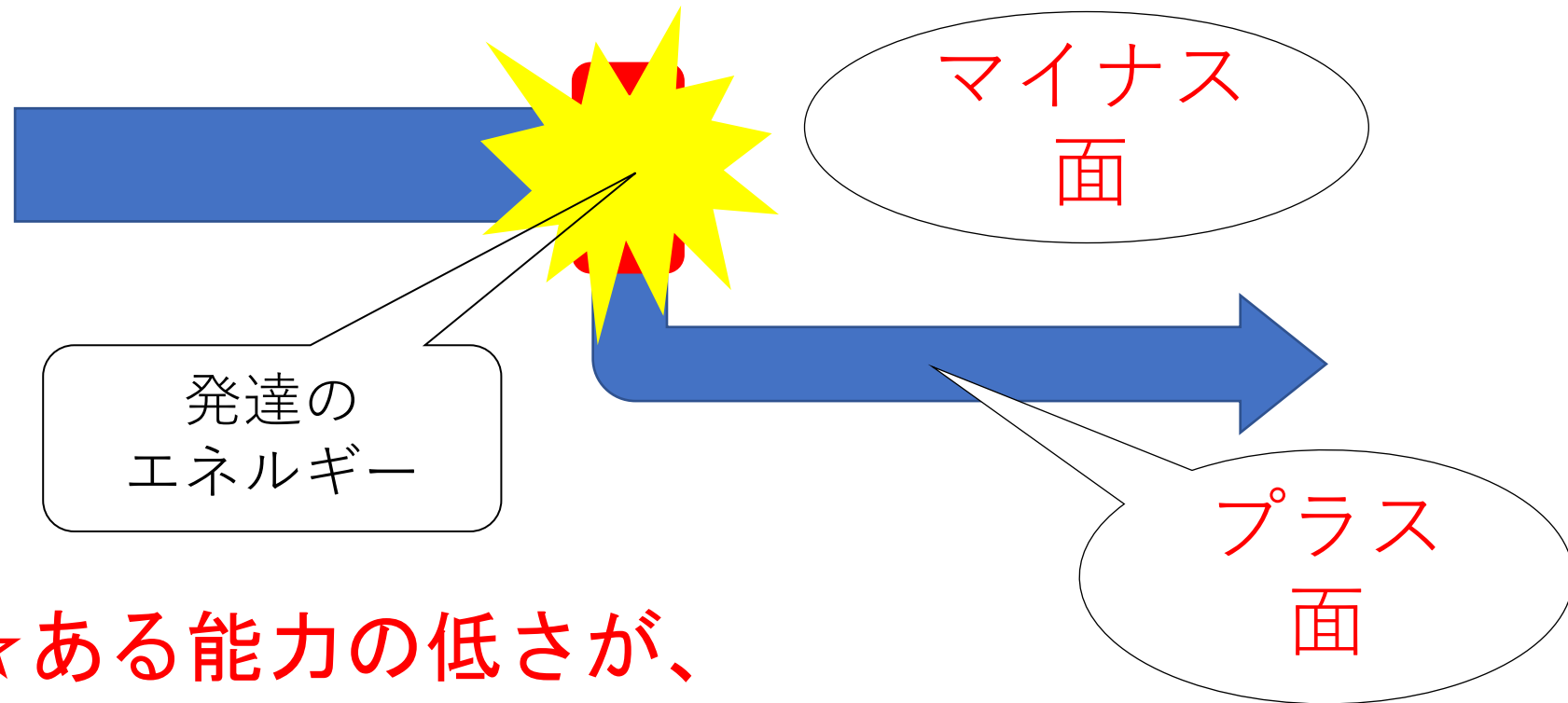


☆単に少ししか発達しないのではない。

☆障害児は(健常児とは)異なる発達の仕方をする。

(一人ひとり発達の筋道が違う)

# 障がい児の発達



☆ある能力の低さが、  
別の能力の発達によって埋め合わされる。  
(障害があるがゆえ、「補償」の力が働く)



たとえば……

- 体幹だけで泳ぐ身体障害のある水泳選手  
(体幹の動きは私たち以上)
- 自閉症児の記憶能力  
(神経衰弱をすると、よく負けます)
- ダウン症児の個性あふれるパフォーマンス  
(ダンスなどとてもうまい。表現力抜群！)

など

A photograph of a swimming pool with several swimmers in different lanes. The water is blue, and there are yellow lane dividers. The swimmers are in various stages of a stroke. A white text overlay is centered in the lower half of the image.

体幹をグラインドさせて泳ぐ映像







とは言え……

- そのようなパフォーマンスをするにはエネルギーが必要。
- 私たちが日常、無意識でできていることも子どもたちは労力をかけている。

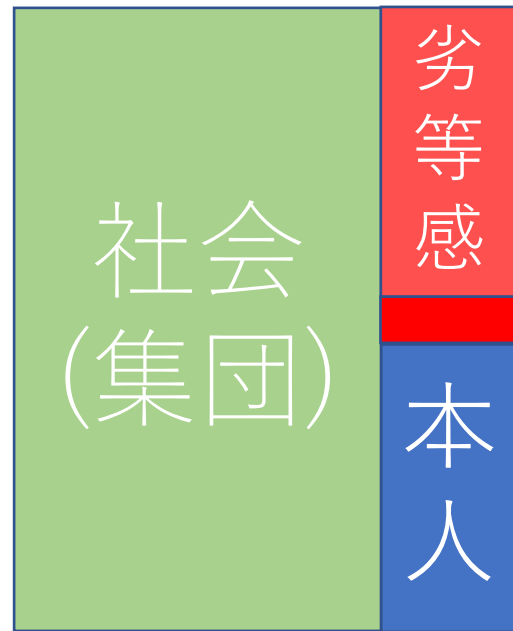


2



- 「そんなことしかできないのか」と結果だけを見るのではなく、
- 「こんなにエネルギーを使っているんだ」
- 繊細な心をもち傷つきやすい。  
(自分の障がいや劣等感を常に意識している)

# 障害は社会との関係で出現する



他者との比較で、  
自分のできない部分を  
自覚する。  
(障害が現実問題として  
現れる)

(集団)

社会との差が広がる = 劣等感を感じやすくなる。

# 強いストレスは危険！

- わからないことが多い、失敗が多い



劣等感、イライラ感、  
自信喪失、etcの増加



二次障害（主に行動障害）  
の原因に



# 「劣等感の克服」 = 「成功体験の蓄積」

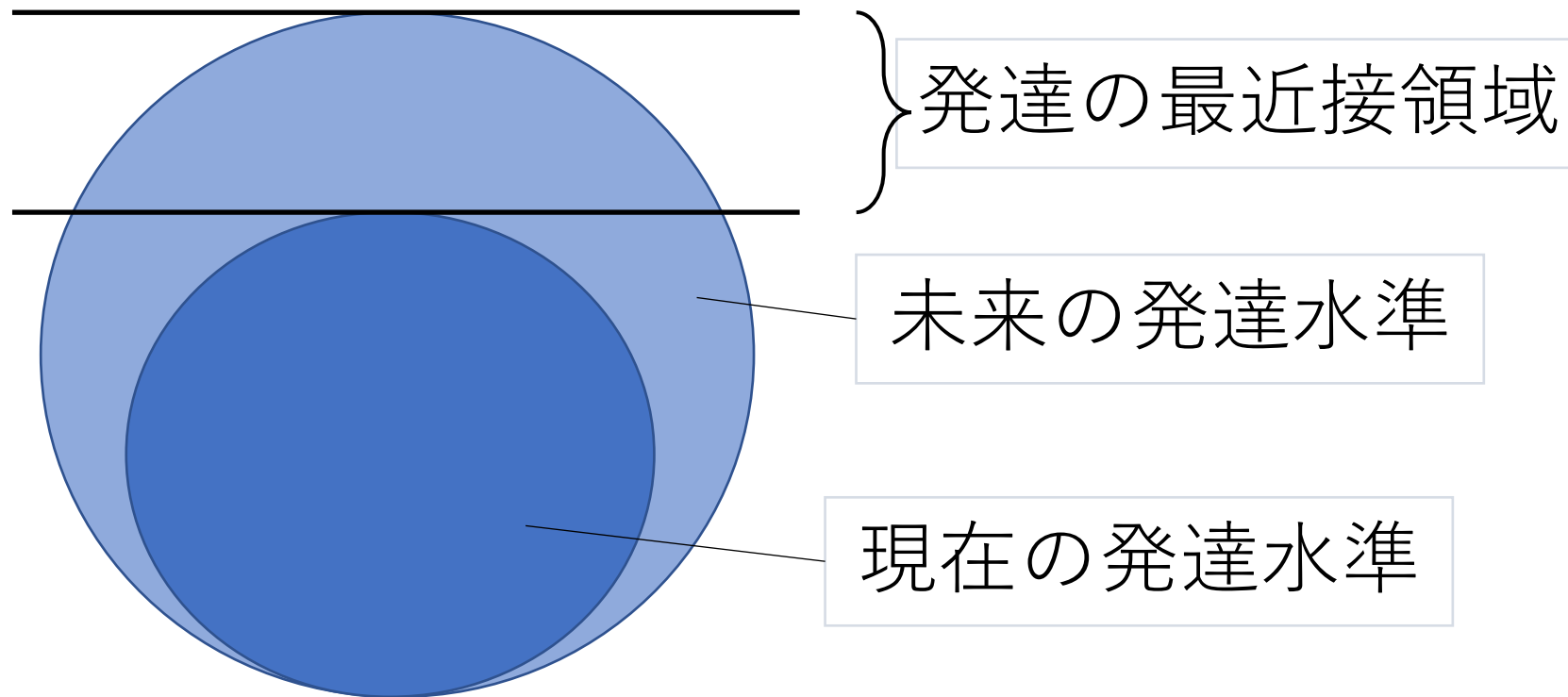
- 「できることをたっぷりくぐらせることで、  
できそうでできない場面がでてくる。  
その葛藤こそ、発達のエネルギー」



白石正久

# 「劣等感の克服」 = 「成功体験の蓄積」

- 発達の最近接領域の理論 (ヴィゴツキー)





## 以上を踏まえた上での指導の基本

- 1 「できる」ことにしっかり取り組むことで、失敗ばかりで自信が持てない子どもたちが自信を持つ。
- 2 「成功体験」の蓄積により、子どもたちの「もっとやりたい」という気持ちが高まる。
- 3 子どもたちの活動が自主的に広がり、いろいろなことへの挑戦が始まる。

- 4 広がると「できそうでできない場面」が出てくる。
- 5 その場面での葛藤が「発達」のエネルギーとなる。
- 6 ここで適切な支援が得られると、乗り越え、成長することができる。

## 障害児教育で大切にしたいこと（まとめ）

☆障害がある =  
発達が複雑になった子どもたち  
= 異なる発達をする。

健常児のルールに子どもをあてはめず、  
独自の学びをどう支援できるかがポイント

## 障害児教育で大切にしたいこと（まとめ）

☆子どもたちは常に「**できない自分**」と向き合っている。

（「劣等感の克服」が重要）

## 障害児教育で大切にしたいこと（まとめ）

☆「わかる」ことで「できる」

○「足が不自由」→ などで支援

○「知的理解が難しい」→ を支援していく。

（できることをたっぷり）

（視覚支援や場の設定も「わかる」を支援）

運動機能障害は知的遅滞と必ずしも結びつかない

# 「体育」は何を教える教科なのか

ある保護者の連絡帳より……

運動会の徒競走、スクールバスを降りてから、家に帰るときの方がよっぽど速かったです。もう少し力を発揮できれば、と思いました。

⇒ 運動課題に子どもの必然性がないことがよくある。



# 「体育」は何を教える教科なのか

ある保護者の連絡帳より……

うちの子は普段ほとんど体を動かすことがないので、学校でしっかり体を動かしてほしいです。

⇒ 週1～2回の授業では限界がある

## でも、子どもたちは 本当に運動がきらい？

- 子どもたちはあそびが好きである。
- 子どもたちは「人と関わりたい気持ち」を持っている。  
（自閉症の人に関わり方が苦手なだけで、人が嫌いではない）
- **運動やスポーツ、あそび**には人とふれあいからだを耕したり、内面を豊かにする要素が多い。

# 自分の身体をコントロールする大切さ

- 運動課題に向き合い 自分の体をコントロールすることは「自分の体を律する」ことでもある。
- 行動をコントロールすることは、気持ちをコントロールすることにもつながる。
- そういう点で（障害児教育において）  
「**体育は基礎教科**」と捉えることができる。

十とばの  
発達

運動やスポーツ、  
あそびには人と  
ふれあい、からだ  
**を耕したり、内面**  
**を豊かにする**要素  
が多い。



# 教材づくりのポイント①

子どもたちの  
欲求・課題  
(やりたいこと)



教材



教師の  
ねがい

実際にやってみて  
修正していく。  
(失敗から学ぶ)

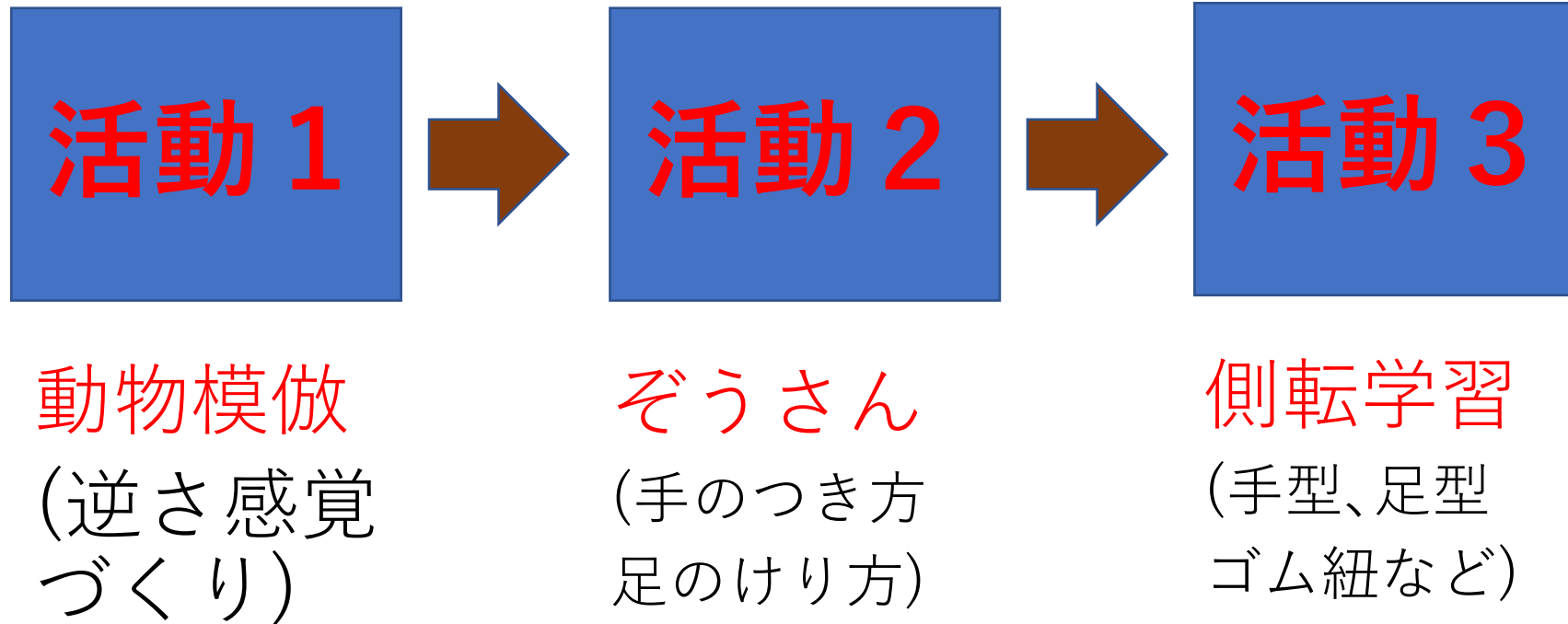
子どもたちが学べる  
よう再構成  
(教材化)

運動文化



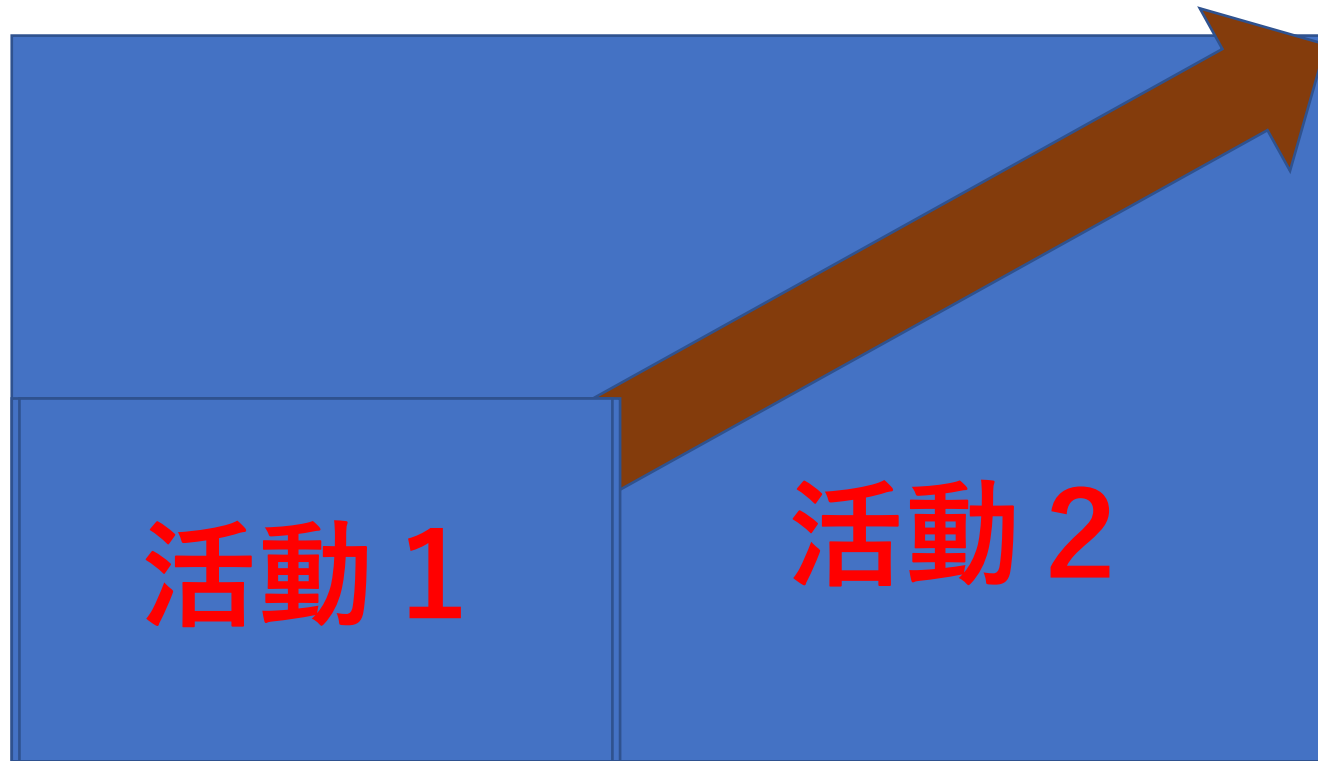
## 教材づくりのポイント②

- 一般的な事例（側転の学習を例に）



このような積み重ねは難しい

## 教材づくりのポイント②



# カンカンサッカーの事例

## 教材づくりのポイント③

### アフォーダンスの視点

アフォーダンス  
(**affordance**) は、  
「afford(与える・提供する)」  
を元にした造語

# バトンスローの事例



## 「教材づくり」のポイント（まとめ）

- 「できないことをできるようにする」ではない。  
⇒子どもたちが「やってみたい！」と思う活動から「文化的価値」を見つけ、教材化。
- 「A→B→C」と積み上げるのではなく、一つの課題設定の中で課題が徐々に変化を。
- アフォーダンスの視点を！
- キーワードは「手ごたえ」と「達成感」

## 授業の振り返り 3つのポイント（3とも）

- みんなとともに、うまくなっているか。
- ともに楽しみ、競い合ったり、パフォーマンスしあっているか。
- 子どもの様子や反応から、その行動の意味を問い直し、次の授業につなげているか。

子どもたちのあそび

# 教師の仕事は環境を整えること

子どもたちが、自発的に取り組める運動や遊びを授業に取り入れ、日常生活の中でそれらがフィードバックされるよう環境を整える。

それだけで、子どもたちの日常は、もっと豊かになっていくように思います。

# 子どもの思い・ねがいは

一言では語れないし、一人ひとり違います。  
でも、**子どもたちが目を輝かせる瞬間**っていう  
のが必ずあります。そこを何とか生かせる教育  
というものを大切にしていきたいと思います。

そのために、障害の捉え方、指導の基本は大事になると  
思うのです。